

原子力リスク研究センター (NRRC) 第2回 技術会議 議事概要

1. 日時 2014年9月26日(金) 10:00~13:00
2. 場所 電力中央研究所(大手町本部) 役員大会議室
3. 出席者(順不同、敬称略)

主査: 横尾(電中研)

委員: 榎(北海道電力)、若林(東北電力、増子代理)、五十嵐・川村(東京電力)、増田・仲村(中部電力、服部代理)、高橋(北陸電力)、大石・鈴木(関西電力)、山本(中国電力、岩崎代理)、山田(四国電力)、馬田(九州電力、岡野代理)、竹野(日本原電、石坂代理)、高橋(日本原燃、大柿代理)、静間(電源開発)、中田(東芝、飯倉代理)、今野(日立GE)、佐治(三菱重工)、倉田(原安進)、示野・座間・酒井・植田・金谷(電中研)

NRRC 幹部(10/1 就任予定): G. アポストラキス・横山・尾本

NRRC 技術諮問委員会委員長(10/1 就任予定): J. ステットカー

4. 議事概要

冒頭、主査より、電力委員として土木建築分野の責任者も委員に加えることとなり、中部電力、関西電力から、新たに1名ずつ委員として加わっていただいたことを紹介。また、今回は NRRC の幹部に就任する予定のアポストラキス氏、横山氏、尾本氏および技術諮問委員会委員長に就任予定のステットカー氏も同席し、意見交換の機会を持つこととしたい旨、説明がなされた。

(1) アポストラキス氏(所長に就任予定)との意見交換

- ・ NRRC 所長に就任予定のアポストラキス氏より、就任に向けての抱負などが述べられた。また、現在とりまとめつつある NRRC のミッションとビジョン及び短期目標の素案が披露された。また、電気事業者、メーカー、原子力安全推進協会、それぞれの PRA 活用に関する取組み状況の概要について、資料配布がなされた。これらをふまえて、アポストラキス氏と産業界委員の間で意見交換がなされた。

(アポストラキス氏の主な発言)

- ・ 事業者がリスクマネジメントを行う際の意味決定は、リスク情報のみに基づく意思決定ではなく、リスクインフォームド(リスク情報を活用した)の意思決定であることを理解する必要がある。この決定は PRA の結果だけ

でなく、法令順守も当然考慮し、不確実性がどの程度なのかという情報も得たうえで行うことが重要である。

- **NRRC** は、ただ単に研究をするだけでなく、皆さんが意思決定をする上で役に立つものを提供していく。従って、皆さんから、今どのような問題に直面しているのか、これから先、どのような問題に直面すると考えているのかを是非伺いたい。

(産業界委員からの主な発言)

- ミッション、ビジョン、短期目標については同意。長期的な目標についても走りながら決めていく必要がある。
- 対策をとることが新たなリスクを生むこともあり、システム全体の中でリスクを考えることは重要である。

(2) **NRRC** 準備チームの活動状況、および **NRRC** の活動計画について

- 準備チームより、「リスク評価ワーキンググループ (WG 1)」、「自然外部事象ワーキンググループ (WG 2)」における研究計画策定の状況について報告された。
- 平成26年度の「追加研究」に関する提案について説明があり、了承された。
- また、**NRRC** 発足に向けた準備状況についても報告された。

(産業界委員からの主な意見)

- **WG1** については、計画はこれで良いが、最終的に **PRA** を現場が使っていく上で、事業者が管理しないといけない部分が出てくると思う。そこに対するインプットが出てくることを期待する。
- **WG2** については、フラジリティの評価をしていく上で地盤や建物など、非線形挙動をとらえることが課題であり、**NRRC** の成果を期待する。

以上